

岩手県感染症週報

平成26年第30週(7月21日～7月27日)

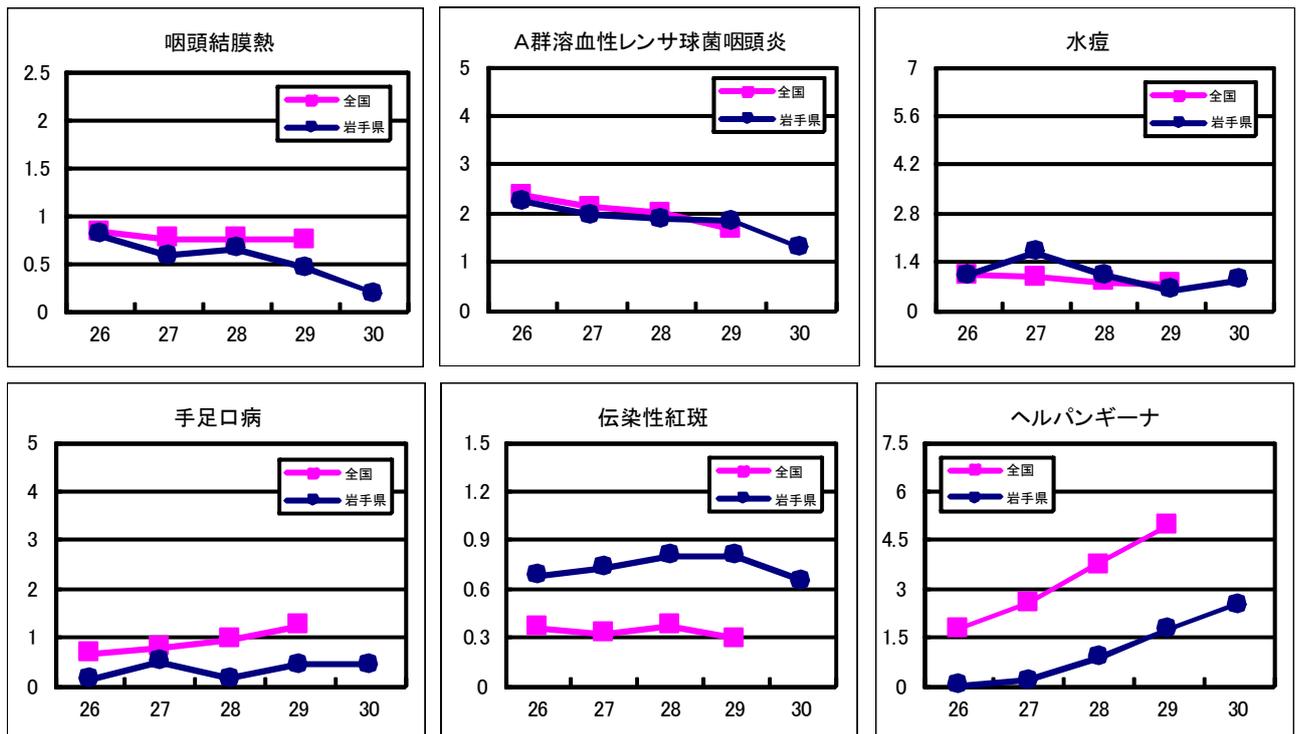
岩手県感染症情報センター

第30週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の患者の報告が3例ありました。潜在性結核感染症の報告はありませんでした。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症(0157など)は、9例の報告がありました。本疾患は、全く症状のないものから、激しい下痢や血便、さらに重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群や脳炎を発症することもあり、様々な症状を引き起こします。なお、県内では保育園において集団感染事例が発生しています。少量の菌数でも感染するので、保育園や福祉施設など集団生活を営む場では二次感染に注意が必要です。予防には石けんと流水による手洗いの徹底が重要です。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・ヘルパンギーナは、宮古地区で警報値(定点あたり患者数6人)を超えています。その他に奥州および二戸地区でも報告数が多くなっています。今後他の地区でも増加が予想されますので、注意が必要です。予防には、外から帰った後、食事の前、トイレの後などの石けんと流水による手洗いの励行が重要です。
 - ・感染性胃腸炎は、県全体では減少していますが、二戸地区で報告数の多い状況が続いています。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		26	27	28	29	30		
インフルエンザ	岩手県	0.19	0.13	0.09	0.03	0.03	→	
	全国	0.07	0.07	0.04	0.04	0.03		
RSウイルス感染症	岩手県	0.03	0	0.03	0.05	0	→	
	全国	0.08	0.08	0.09	0.12			
咽頭結膜熱	岩手県	0.8	0.58	0.65	0.45	0.18	→	☆
	全国	0.83	0.76	0.76	0.75			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.25	1.95	1.88	1.83	1.28	→	☆
	全国	2.36	2.13	1.99	1.67			
感染性胃腸炎	岩手県	5.35	4.45	4.03	3.83	3.18	↘	☆
	全国	4.99	4.62	4.28	3.89			
水痘	岩手県	1.03	1.68	1.03	0.6	0.88	→	☆
	全国	1.03	0.95	0.83	0.77			
手足口病	岩手県	0.13	0.5	0.15	0.45	0.45	→	☆
	全国	0.66	0.78	0.96	1.24			
伝染性紅斑	岩手県	0.68	0.73	0.8	0.8	0.65	→	☆
	全国	0.36	0.32	0.37	0.29			
突発性発疹	岩手県	0.55	0.6	0.65	0.75	0.53	→	☆
	全国	0.67	0.67	0.64	0.65			
百日咳	岩手県	0.05	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.02			
ヘルパンギーナ	岩手県	0.03	0.18	0.88	1.75	2.5	↗	☆☆
	全国	1.74	2.54	3.73	4.94			
流行性耳下腺炎	岩手県	0.2	0.33	0.3	0.23	0.25	→	☆
	全国	0.37	0.4	0.38	0.39			
急性出血性結膜炎	岩手県	0.07	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.02			
流行性角結膜炎	岩手県	0.64	0.36	0.5	0.14	0.14	→	☆
	全国	0.63	0.67	0.71	0.6			
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.01	0.03			
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0.05	0	0.16	0	→	
	全国	0.06	0.07	0.05	0.07			
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.47	0.21	0.26	0.47	0.32	→	☆
	全国	0.26	0.29	0.26	0.24			
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0	0.01	0.01			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.11	0.07	0.06	0.02			
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	2	1	2	0	1		
	全国	7	4	6	2	8		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) が
2013年10週より対象疾患になりました。 (患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					全国		
		26	27	28	29	30	累計	29	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	5 (3)	10 (5)	6 (3)	9 (4)	3 (0)	167 (66)	383	13773
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	2	0	54
	腸管出血性大腸菌感染症	5	7	3	5	9	39	115	1334
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	23
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	2	10
四類 感染症	E型肝炎	0	1	0	1	0	3	7	85
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	4	376
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	1	8
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	6
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	2	34
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	6
	つつが虫病	0	1	0	0	0	3	2	107
	デング熱	0	0	0	0	0	0	3	89
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	3	73
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	7
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	31
	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0	0	0	1	4
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
レジオネラ症	0	0	0	0	0	4	38	612	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	7	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症が第14週より、鳥インフルエンザ (H7N9) が第19週より届出対象疾患となりました。

分類	疾病名	(週) 岩手県					全国		
		26	27	28	29	30	累計	29	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	1	0	0	0	0	10	11	607
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	2	143
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	4	2	267
	クリプトスポリジウム症	0	1	0	0	0	1	0	80
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	2	0	0	0	3	4	90
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	4	145
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	12	822
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	36
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	117
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	21
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	6	11	1145
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	8
	梅毒	0	0	0	0	0	2	18	848
	破傷風	0	1	0	1	0	4	2	67
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	31
	風しん	0	0	0	0	0	1	3	248
	麻しん	0	0	0	0	0	0	2	413
指定	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0

今注目の感染症

咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス感染症で、プールでの感染が多く見られることから、プール熱とも呼ばれています。原因はアデノウイルスで、多数の型のうち主に3型が原因となります。咽頭結膜熱の岩手県での発生状況ですが、5月から8月にかけて報告数が多くなっています(表1)。感染経路は飛沫感染や接触感染で、タオルを共用して感染することもあるので注意が必要です。

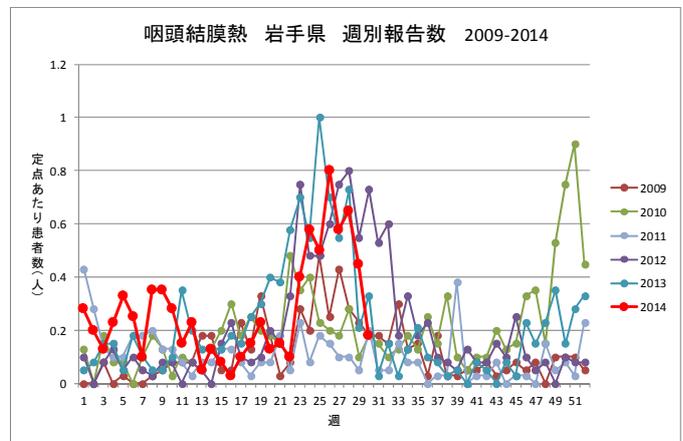
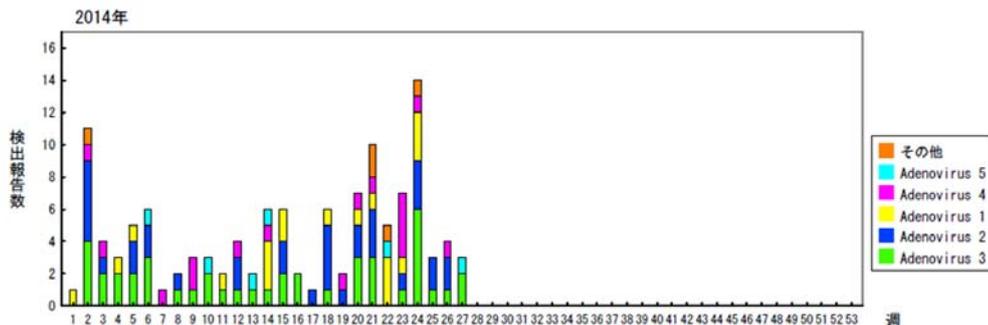


表1 咽頭結膜熱週別報告数 岩手県 2009-2014

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



週別 咽頭結膜熱患者からのアデノウイルス分離・検出報告数 (全国)

今注目の感染症 (つづき)

つつが虫病

つつが虫病は、ツツガムシ病リケッチアに感染したツツガムシ (ダニの一種) の幼虫の刺咬により感染します (図1)。

岩手県での発生状況ですが、春から夏と、秋から冬にかけて2つの発生のピークがみられます (表1)。また、全県内で発生しています (図2)。

ツツガムシの生息しているような場所 (野山や田畑、河川敷等) に立ち入る場合には、肌の露出を少なくして、防虫剤 (ある程度効果が見込まれる) を適宜使用しましょう。帰宅後は速やかに入浴やシャワーなどで、ダニを洗い流すことも大切です。

潜伏期間は5日から15日間で、症状は発熱、刺し口、発疹が主要症状です。

つつが虫病は適切な治療を早期に受けることが重要です。野外での活動の後、疑わしい症状が出た場合には、早めに医療機関を受診しましょう。野外での活動のことを医師に伝えることも大切です。

岩手県では、今年これまでに3例の報告がありました。

参考：国立感染症研究所 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>

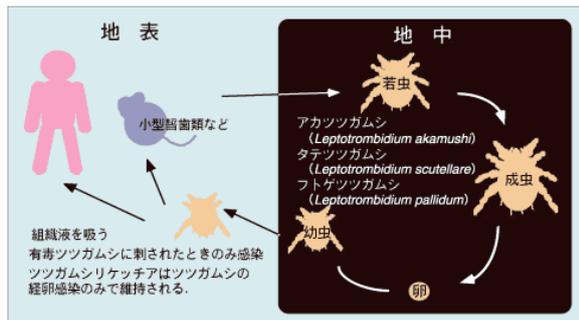


図1. ツツガムシの生活環

図1 ツツガムシの生活環
— 国立感染症研究所HP より —

図2 つつが虫病患者の住所地
2008～2013年 岩手県



- 2013年(平成25年)
- 2012年(平成24年)
- 2011年(平成23年)
- 2010年(平成22年)
- 2009年(平成21年)
- 2008年(平成20年)

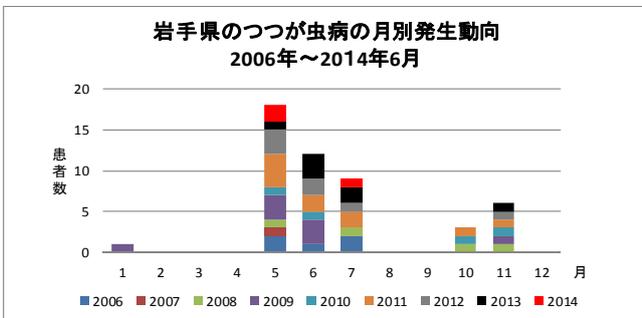


表1 岩手県内のつつが虫病の
月別報告数 (2006～2014年)

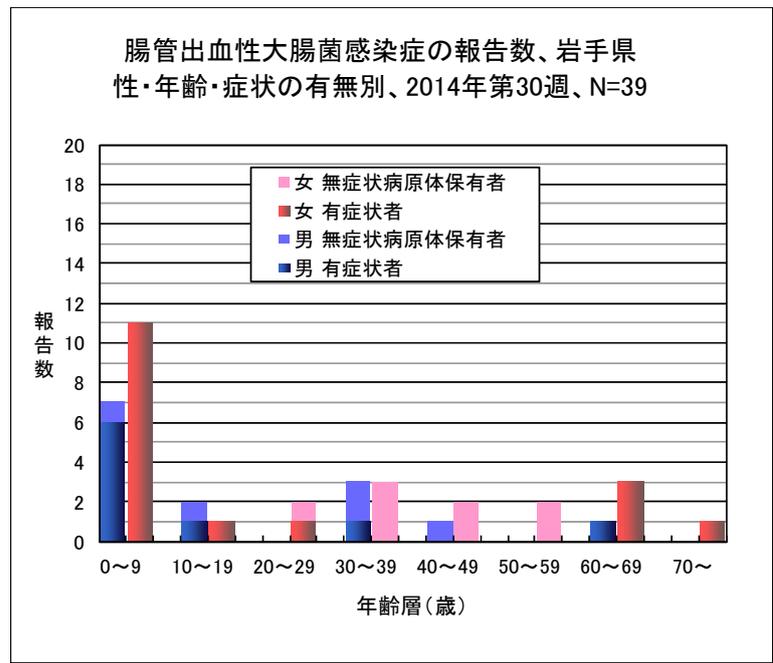
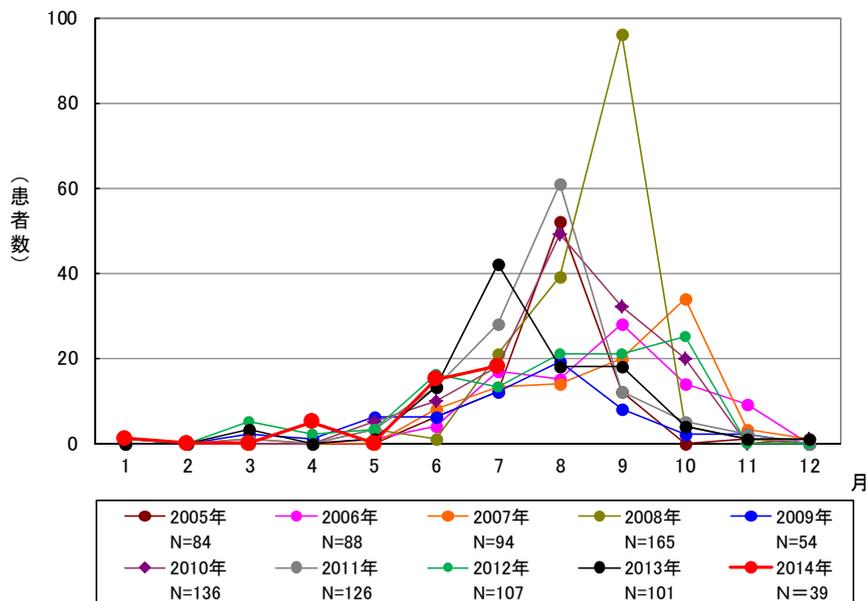
今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、第30週までに39例の患者さんが報告されています。原因となった大腸菌は、O157が9例、O26が20例、O103が3例、その他が7例となっています。年齢層別では、0～9歳が18名、10～19歳が3名、20～29歳が2名、30～39歳が6名、40～49歳が3名、50～59歳が2名、60～69歳が4名となっています。

予防には、食中毒予防の基本を守り、生レバーや加熱不十分な食肉等を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を予防するため、排便後・食事前の石けんと流水を用いた手洗いの励行も重要です。

腸管出血性大腸菌感染症 月別患者数 (岩手県2005年～2014年)



病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- 腸管出血性大腸菌（O26）感染症の集団発生について
紫波町内の保育所（園児132名、職員32名）
 - ・7月29日（火）までに患者等11名（患者8名、無症状病原体保有者3名）の感染を確認
 - ・症状は下痢等で、いずれも回復傾向。
 - ・感染者の有無、感染経路の調査を継続実施中
- 食中毒の発生について
花巻市内の旅館
 - ・発生日 平成26年7月22日（火）
 - ・患者数、主症状 92名、下痢、嘔吐、吐気、発熱、腹痛
 - ・原因物質 サルモネラ属菌
 - ・原因食品 7月21日（月）夕方から23日（水）朝までの食事県民くらしの安全課HP <http://www.pref.iwate.jp/anzenshin/22551/chuudoku/index.html>

医療機関からの情報

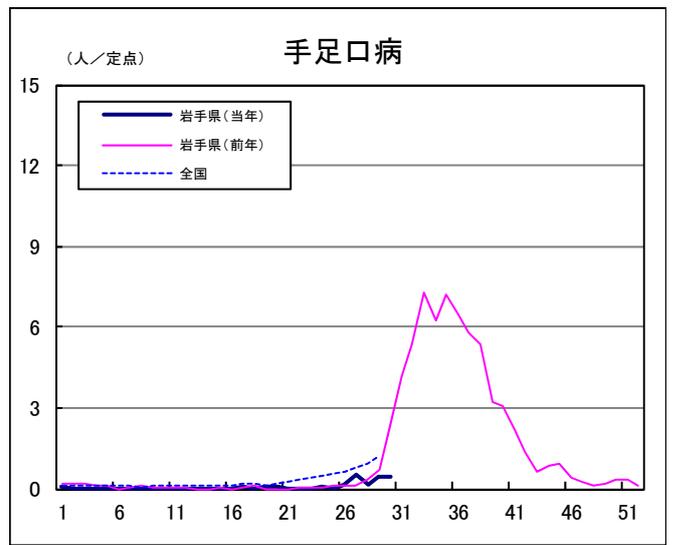
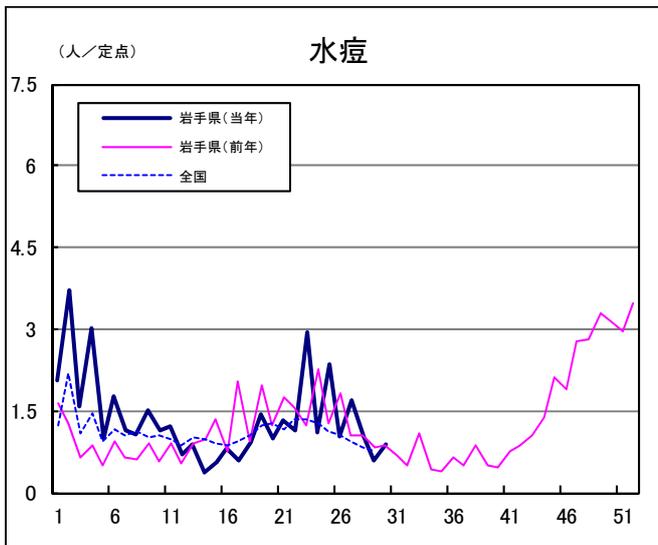
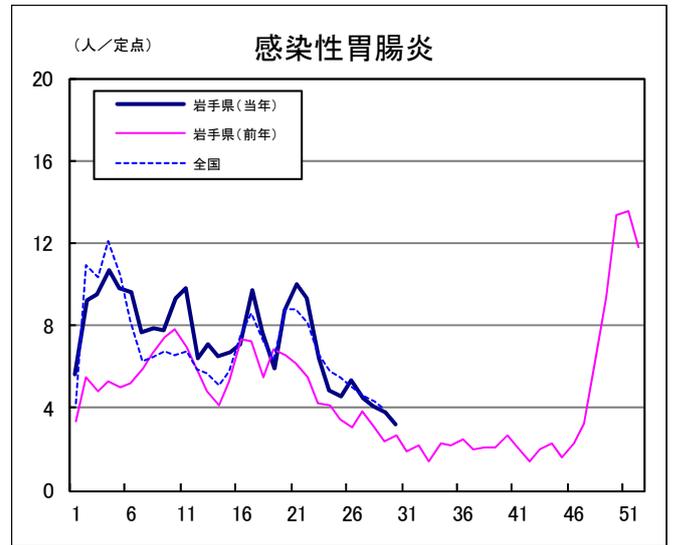
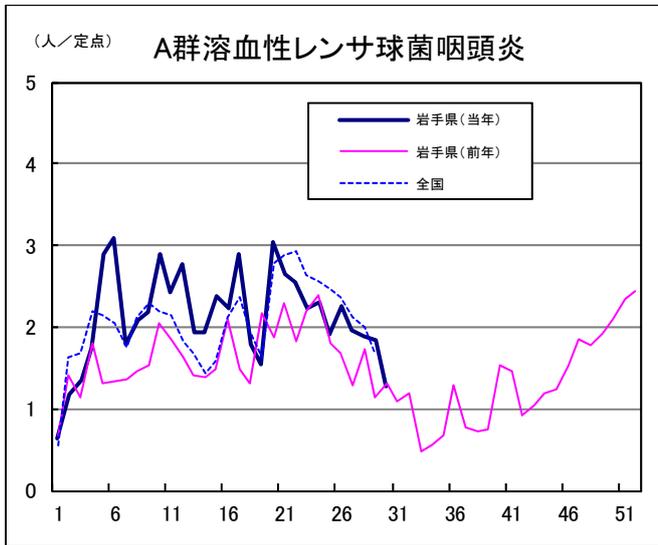
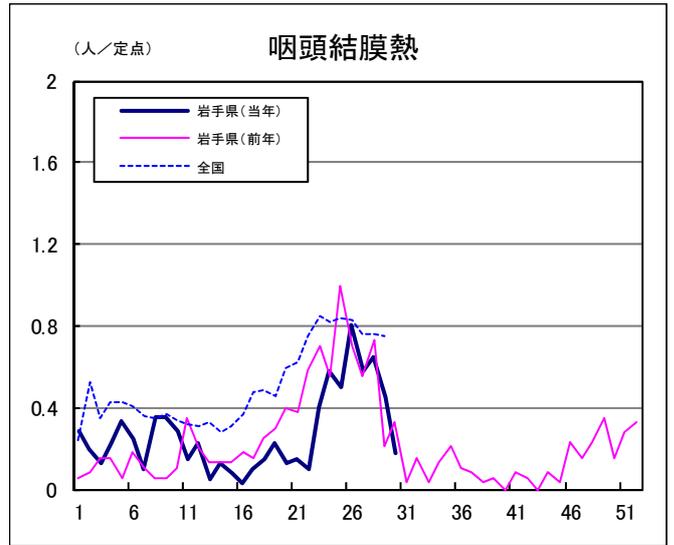
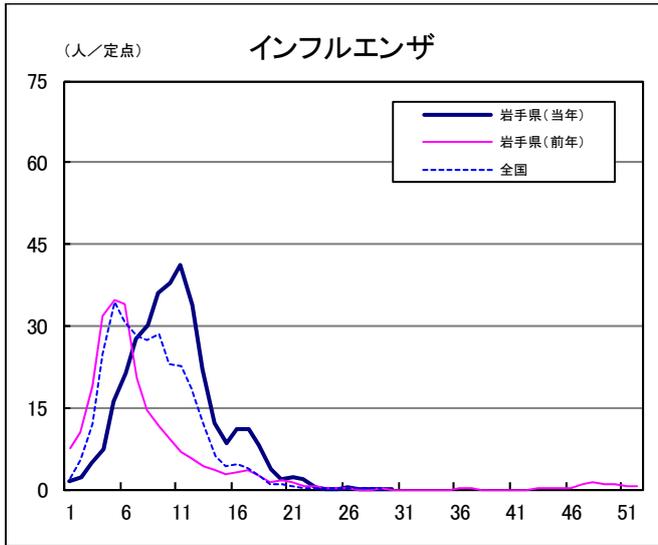
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

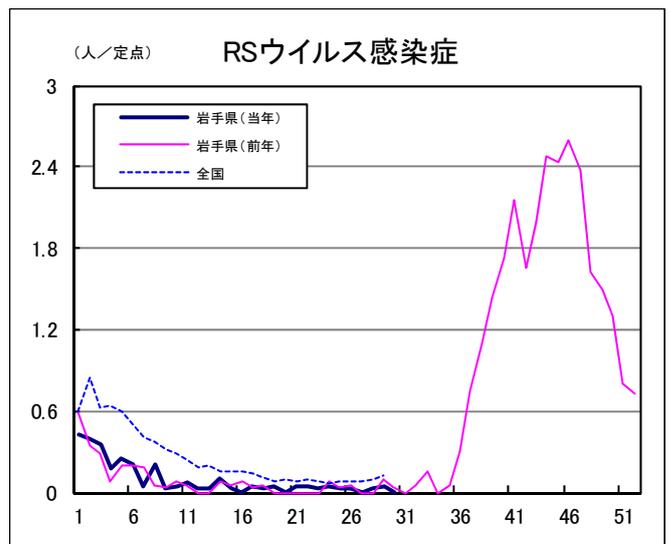
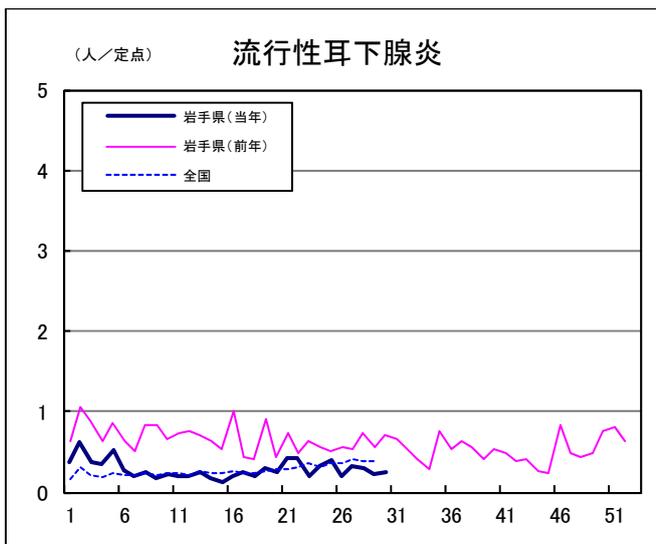
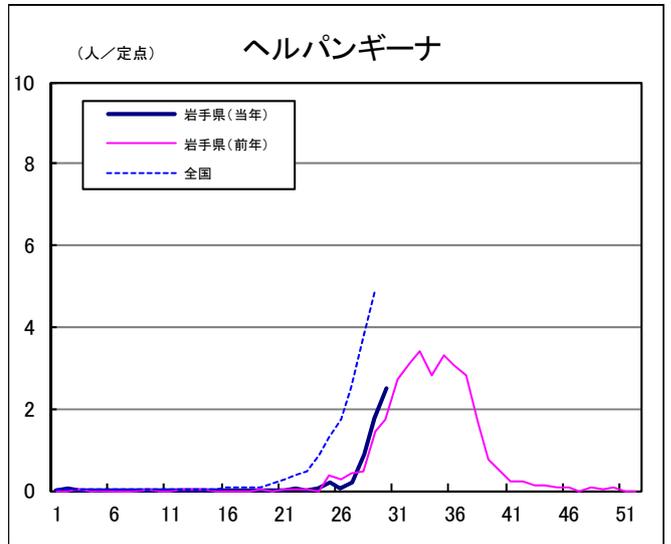
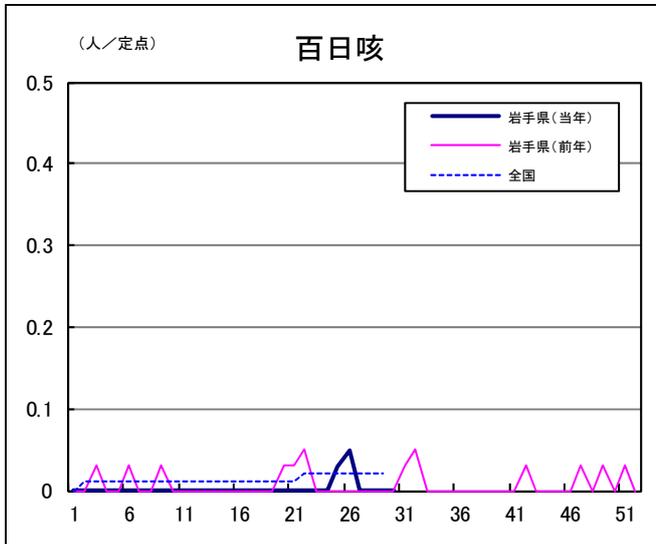
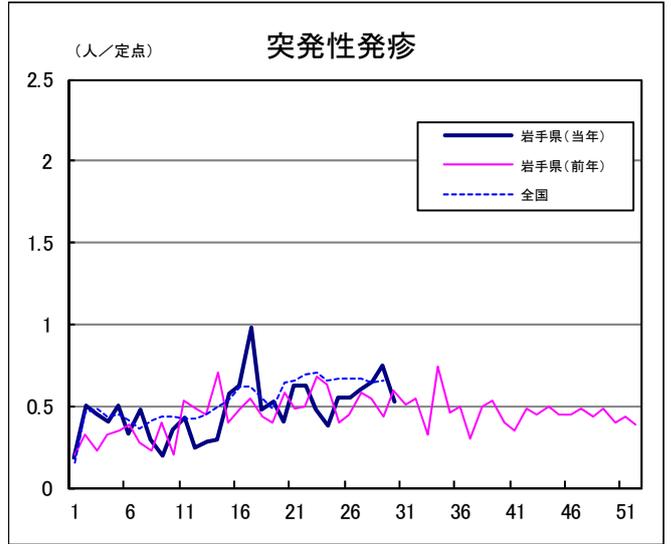
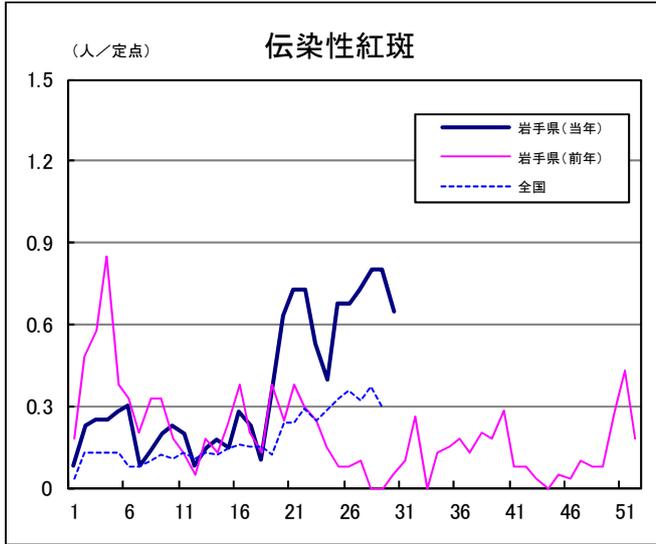
Q & A

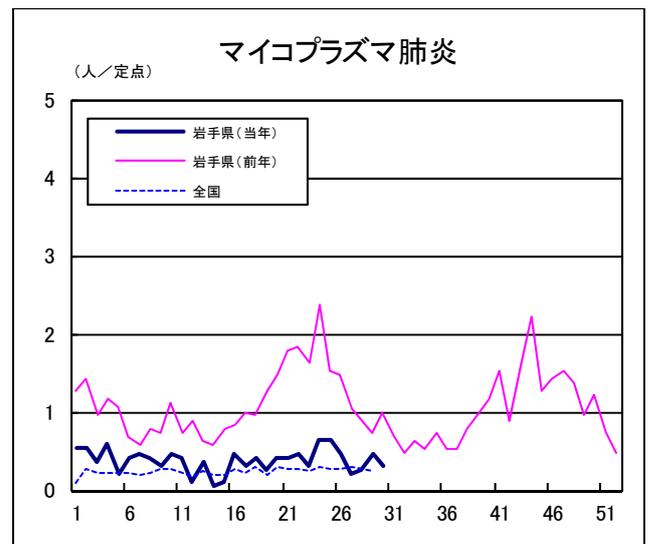
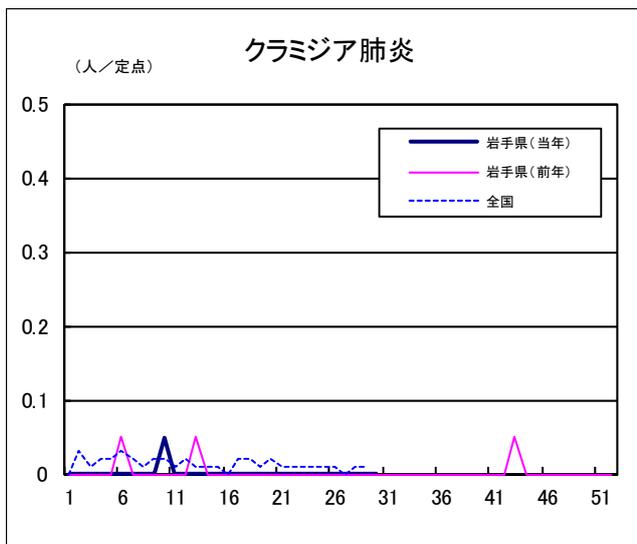
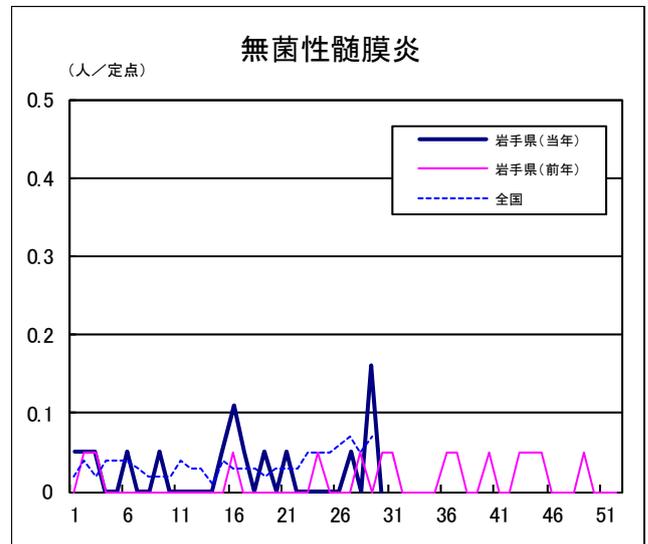
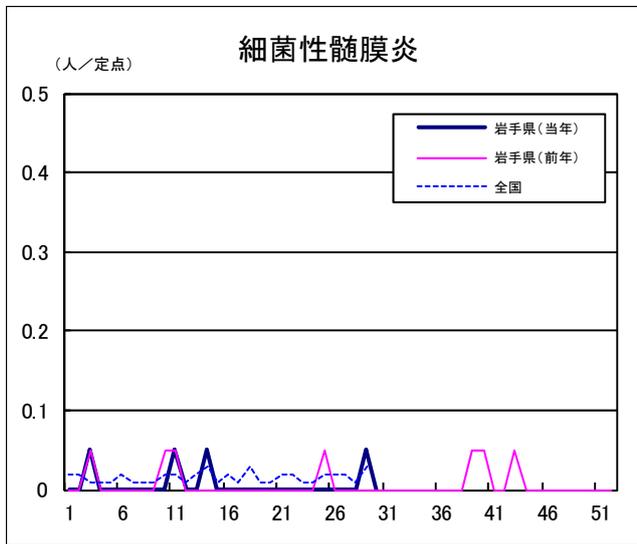
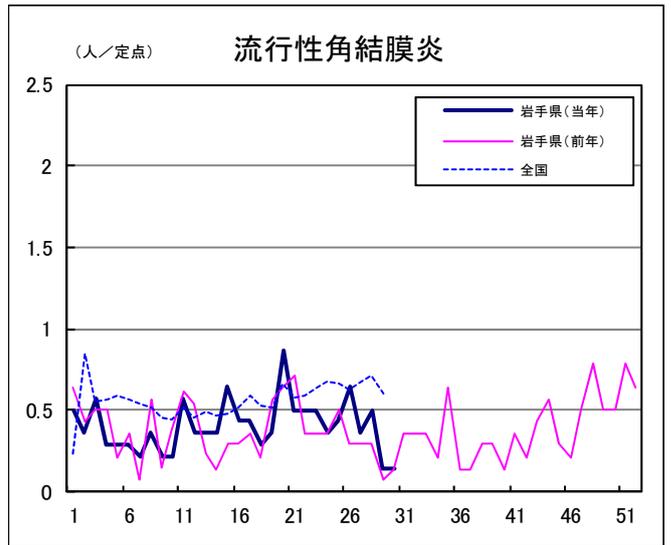
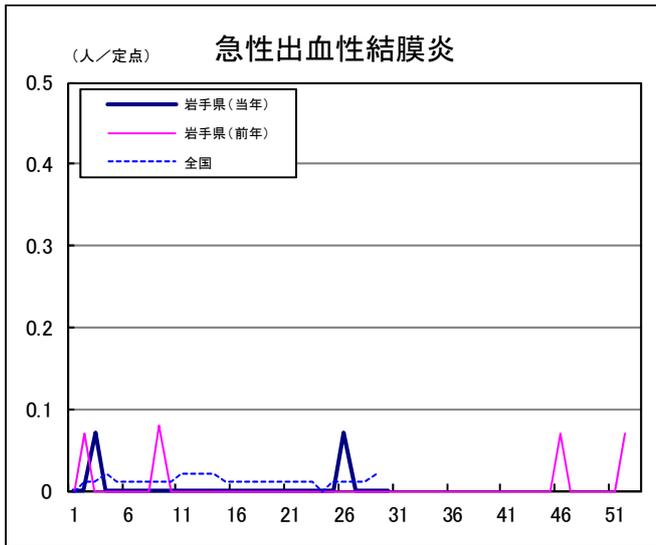
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
（平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。）
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	64	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	7	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成26年第30週 平成26年8月1日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=345&ik=3&pnp=17&pnp=60&pnp=345>

<岩手県保健福祉部医療政策室>